

平成 28 年度
博士論文要旨

危機管理における heuristics の影響とその回避策

嘉悦大学大学院
ビジネス創造研究科

浅野 竜一

論文要旨

No. /

ビジネス創造 研究科 ビジネス創造 専攻

氏名 浅野 竜一 印

論文題目

危機管理における heuristics の影響とその回避策

論文の要旨

本論文では、体験や知識を簡便化して利用する判断基準であるヒューリスティクス (heuristics) が日常的あるいは危機的な状況での様々な判断や意思決定におよび影響をいくつかの事例に基づいて検証し。生得的な能力としては有効であるものの、連想一貫性や認知容認性に基づく各種のバイアスに引き込み、合理性を失わせる判断をさせてしまう可能性があることについて考察する。また、連想一貫性や認知容認性に基づく「想起しやすい記憶」を利用し、特に緊急時における判断が正しい方向性に導かれるような訓練や教育ありを提案する。

第 1 章では、次章以降での議論の準備として、危機とリスクの区分、リスクを被る階層区分、被害と発生可能性の関係を見るリスクマトリクス、危機管理の 5 段階を順に解説する。

第 2 章では、各種事例において生じた判断がヒューリスティクスの影響を受けていたか否かについて、危機管理の 5 段階を利用して各段階における活動目標と方法について考察する。

第 3 章では、在アルジェリア邦人に対するテロ事件及び東日本大震災の事例を検証し、ヒューリスティクスが影響を及ぼしたと思われる被害や対処を確認する。

第 4 章では、社会問題におけるヒューリスティクスの影響を検証する為、いじめ問題に関する対策におけるその影響を考察する。

第 6 章では、著者が過去に行ったヒューリスティクスとして利用される記憶の蓄積を正しい経験の蓄積とすることによって危機に対応する能力が向上するか否か、現職の自衛官からのアンケート調査を基に検証する。

第 7 章では、著者が一般市民に行っている「被災体験プログラム」による市街地における震災の疑似体験により、ヒューリスティクスに組み込まれていた既存の災害対策の誤解を解消し、実体験による想起しやすい記憶の形成によって、「状況に適した記憶と体験の蓄積」が可能になることを例示する。

本論文は、上記 7 章によりヒューリスティクスの短所である危機的な状況におけるバイアス（認知の歪み）の発生を検証した後に、ヒューリスティクスの長所である早い判断を利用するための教育を例示し、今後発生するであろう国難の一助となる論考を試みるものである。